



人権と平和は

21世紀のキーワード

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

「福山海軍航空隊」 ～その誕生から特攻作戦まで～

期間 7月13日(金)～8月31日(金)

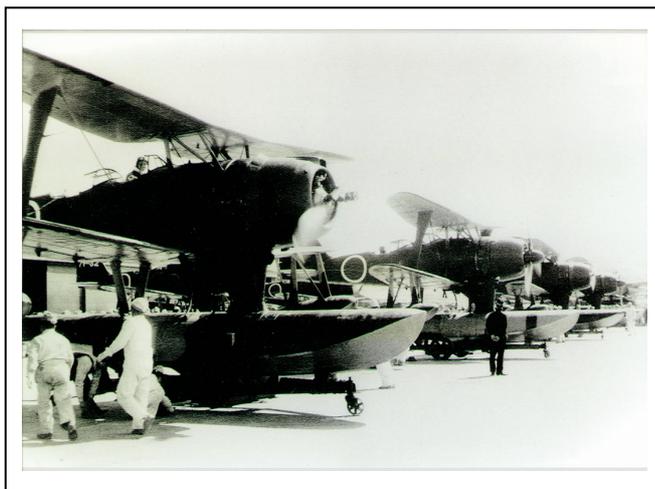
■知っていますか？ 福山から2つの特攻隊が出撃したこと・・・

1945年(昭和20年)8月8日の福山空襲から73年が過ぎようとしています。この戦争によって多くの大切な命が奪われました。戦地に赴いた人たちの多くは90歳を超えようとしています。

今回の企画展では、福山海軍航空隊から出撃した特攻作戦について、当時所属していた飛行機整備兵の目から見た「特攻」を、新たな証言をもとに構成しました。また、極秘裏に進められた特殊攻撃機「晴嵐」によるパナマ運河特別攻撃隊についても、呉市の大和ミュージアムと連携し、伊号第400潜水艦の資料及び海軍航空隊の飛行服や救命胴衣等の貴重な現物資料を展示しております。この企画展を通して、「戦争は最大の人権侵害」であることを共に考えていく機会としていただきたいと思います。

【福山海軍航空隊琴平水偵隊の特攻】

福山から天草海軍航空隊基地に待機し、次に指宿基地で出撃の機会を窺いました。1945年(昭和20年)5月20日の出撃は、天候不良で天候の回復を待ちましたが回復せず、いったんは福山に帰還します。1ヶ月後再び出撃し、沖縄本島付近の米艦隊に突入し、9人が戦死しました。



特攻機零式観測機



伊号第400型潜水艦

【神龍特別攻撃隊】

1942年(昭和17年)日本海軍は潜水艦搭載機「晴嵐」による連合軍の要であるパナマ運河の特攻を計画、第631海軍航空隊を編成し、福山海軍航空隊を基地として、準備を進めました。しかし、戦況の悪化から攻撃目標をウルシー環礁の米海軍艦隊泊地に変更し、伊号第400型潜水艦に「晴嵐」を搭載し出撃しますが、特攻寸前で終戦になります。帰還した隊員たちが日本で目にしたのは米軍の空襲により破壊された町でした。

映画会 「月光の夏」

入場無料

～忘れられません 特攻隊員の

「月光」の調べと さよならの声～

■日時 7月22日(日) ①午前10時00分～ ②午後1時30分～

■場所 人権平和資料館



太平洋戦争末期の1945年(昭和20年)6月に、佐賀県鳥栖の国民学校(現・小学校)を訪れたふたりの若者がいた。彼らは、出撃をひかえた特攻隊員で、音楽を愛していた。この学校にグランドピアノがあると聞き、死ぬ前に一度思い切りピアノが弾きたくて駆けてきたのだ。ひとりが楽譜をめくり、ひとりがベートーベンのピアノソナタ「月光」を見事に弾くと、去ったきり二度と戻らなかった。当時の女教師(故上野 歌子さん)がその思い出を忘れられず、語り伝え、秘話はよみがえった。半世紀の歳月を超えて、一台のピアノと「月光」のメロディが語りかけてくる戦争犠牲者への鎮魂と平和への願いがこの映画に込められている。

(資料提供：福山映画センター)

講演会 「300回の出撃パイロットが

入場無料

語る海軍航空隊」

講師 元海軍航空隊パイロット 田中 光政 さん

■日時 7月29日(日) 午後1時30分～

■場所 人権平和資料館

1943年(昭和18年)4月に17歳で岩国海軍航空隊に入隊し、即製の練習で通常2年で教育するところを1年で済ませた。また、通常海軍の教育を半年受けた。内容は陸戦、水泳、カッター、学科などで、失敗すると上官に殴られた。佐世保海軍航空隊にいた時、特攻隊員の募集があった。特攻に行く覚悟を問われ、応募者全員が「行く」と答えた。この時は、死ぬことについては何の抵抗もなかった。死ぬことについては毎日頭にあって感覚はマヒしていたと思う。誰もが死ぬのは当然と思っていた。全員が特攻の希望を出していたが、最後は上官が本土防衛に当たるものと特攻へ行くものに振り分けた。私は、本土防衛を命じられ、特攻を命じられたもののほとんどが、沖縄特攻で戦死した。



田中 光政さん